

1 概要

- 目的 : 昨年8月の安倍総理の訪伯時の首脳会談において、ブラジルにおける穀物輸送インフラの改善は、両国にとって戦略的に意義があることを確認。このフォローアップとして、インフラ改善の在り方について、農業・食品産業の観点を踏まえて日伯の官民で議論。
- 開催日・場所 : 平成27年10月7日(水) ブラジル・サンルイス市
- 議題 : ① ブラジルセラード北部地域における日系・伯企業の農業・食品産業の事業展開内容及び関心事項
② 穀物輸送インフラに対する改善の在り方
③ 同地域の農業開発の現状、展望及び課題
- セミナー終了後、イタキ港(サンルイス市)の港湾施設を視察
- ブラジルで年度内に開催予定の第2回日伯農業・食料対話でセミナーの結果を報告予定

2 参加者

日本側 : 農林水産省(梶島大臣官房参事官)、在ブラジル日本大使館(梅田大使)、ITOCHU Brazil S.A.、双日ブラジル、中南米工営、日本工営、NHフーズ・ブラジル、ブラジル味の素、ブラジル日本商工会議所、ブラジル三菱東京UFJ銀行、フルッタフルッタ、Mitsui Rail Capital Participações Ltda.、MHI Sul Americana、ヤンマーサウスアメリカ、JBIC、JICA

ブラジル側 : 農務省、運輸省、国家水運庁、マラニャン州政府、CAMPO(日伯農業開発(株))、EMAP(マラニャン州港湾管理会社)、TEGRAM(マラニャン倉庫管理会社、双日・豊田通商が出資)、VLI(港湾運営会社、三井物産が出資)

